

## 調査方法

### 1 調査定点の設定（付図1-1,-2,-3参照）

①びわ町川道幼稚仔保育場：昭和54年に造成された人工の小規模内湖状水域。内湖状水面になっている保育場の中央付近で、かつての藻玉放流施設の脇に Stn-中央、琵琶湖側の岸辺のヨシ等抽水性植物が粗に生えている所に Stn-岸を設定した。

②海老江水田排水路：湖周堤防の内側すぐの圃場整備された水田の排水路。調査定点として幹線部と支線部の2点を設定した。幹線排水路は樋門を介して琵琶湖に通じている。支線排水路は田んぼからの排水を流し、幹線に通じている。

③新海水田排水路：湖周堤防の内側すぐの圃場整備された水田の排水路。調査定点として幹線部と支線部の2点を設定した。幹線排水路は樋門を介して琵琶湖に通じている。支線排水路は田んぼからの排水を流し、幹線に通じている。

### 2 理化学項目

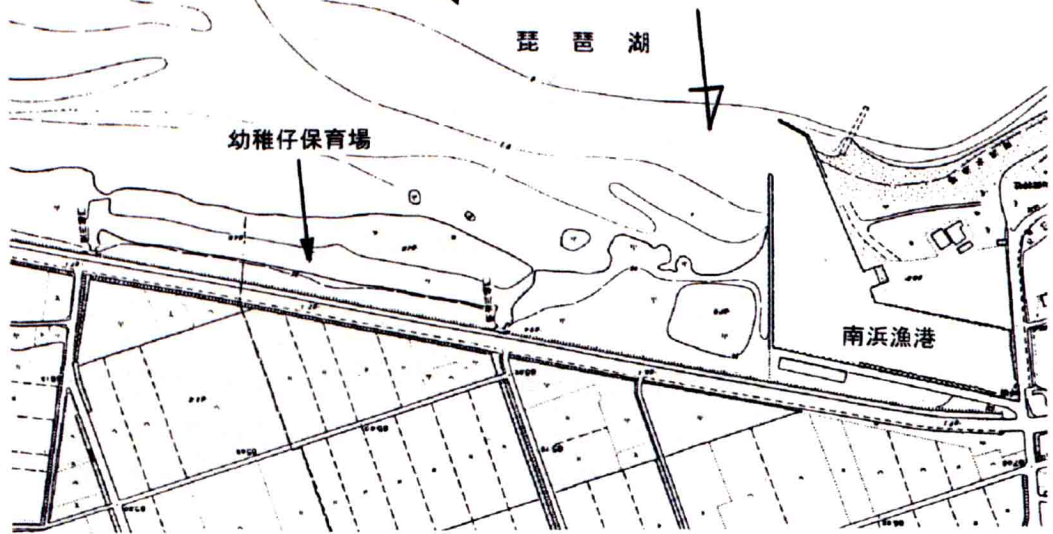
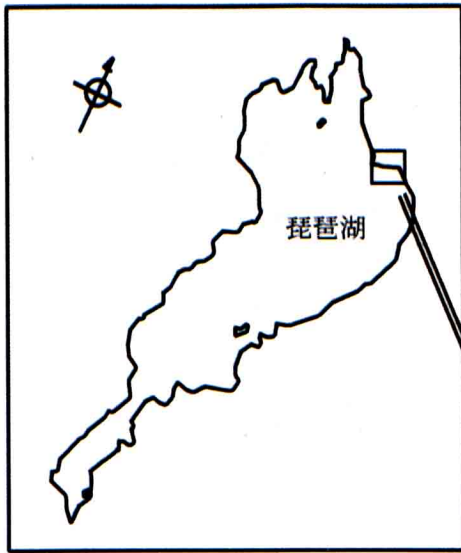
水温、溶存酸素、pH、濁度、電気伝導度は現場で表層と底層を水質チェッカー（ホリバU-10）により、水深は巻き尺により測定した。クロロフィルaは表層水を Scor/Unesco の方法により測定した。また、幼稚仔保育場については水中照度を Stn-中央において表面、水深1m、底面の3層で水中照度計（東芝照度計9号形（水中照度測定用）：東京光学機械株式会社）を用いて測定した。調査は5月から3月まで毎月1回行った。

### 3 魚類調査

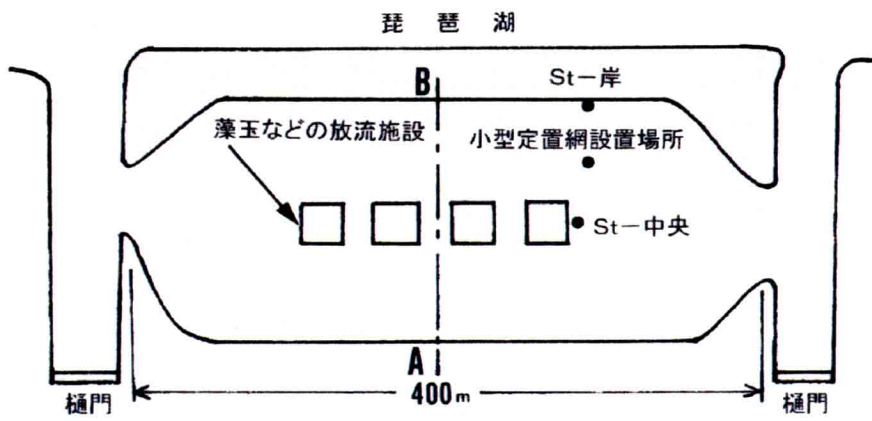
魚類の採捕は、幼稚仔保育場では小型定置網を2日間設置して行った。水田排水路では、幹線ではドーム型のカゴ2つと袖網付きのモンドリを、支線ではエレクトリックショッカーを用いた。なお、水田水路支線において水が無い時は水路に堆積している土を採集して土中で越冬しているドジョウ等の採捕を試みた。採捕した試料は10%ホルマリンで固定し、種類・個体数・重量・個体測定を行った。調査は5月から3月まで毎月1回行った。

### 4 動物プランクトン調査

NXX14のプランクトンネットで10ℓの水を濾過して、プランクトンを採集した。採集後5%中性ホルマリン液で固定した。（試料は未整理のため試料データからは除外している。）



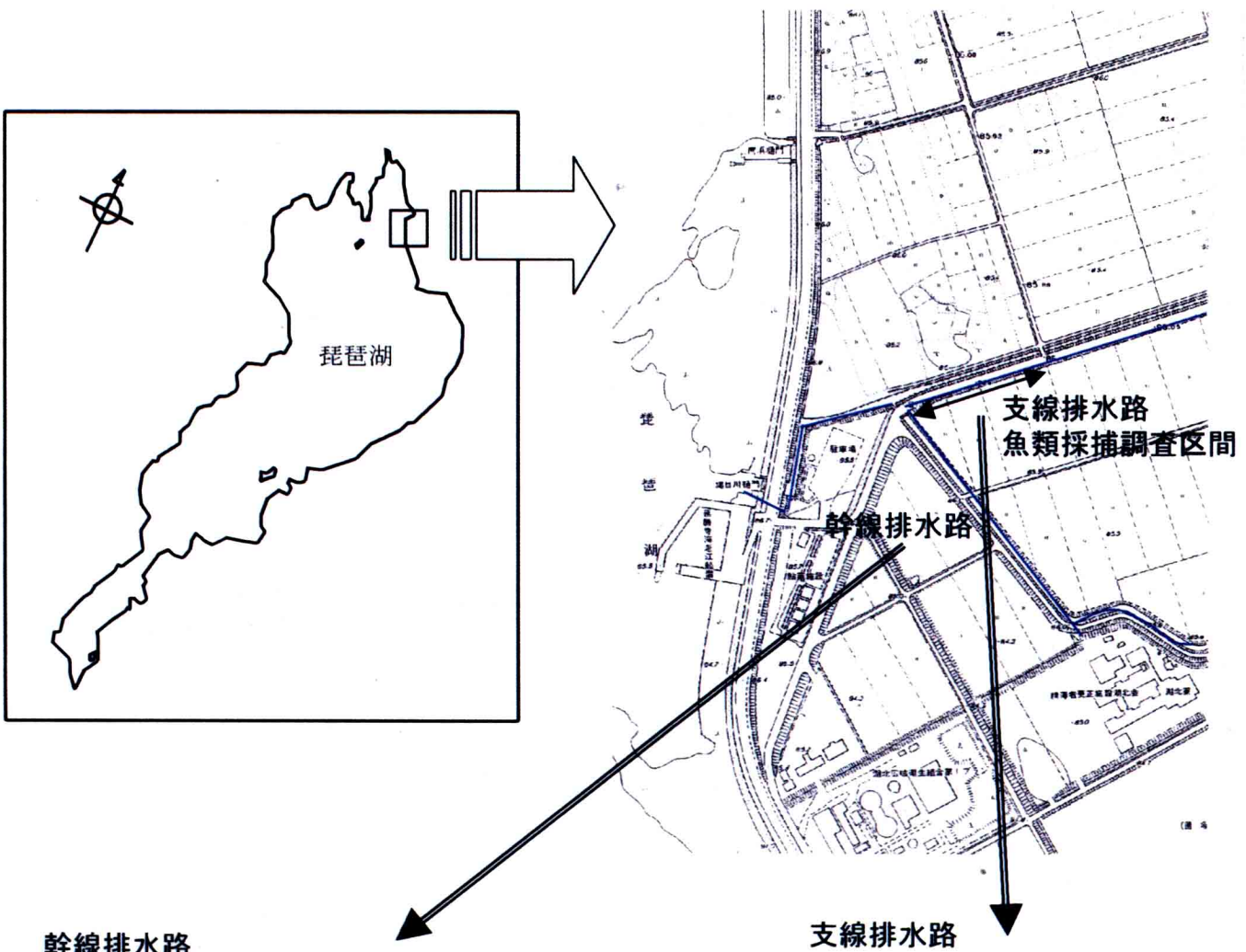
幼稚仔保育場周辺水域図



幼稚仔保育場模式図

付図1-1 びわ町幼稚仔保育場調査地点



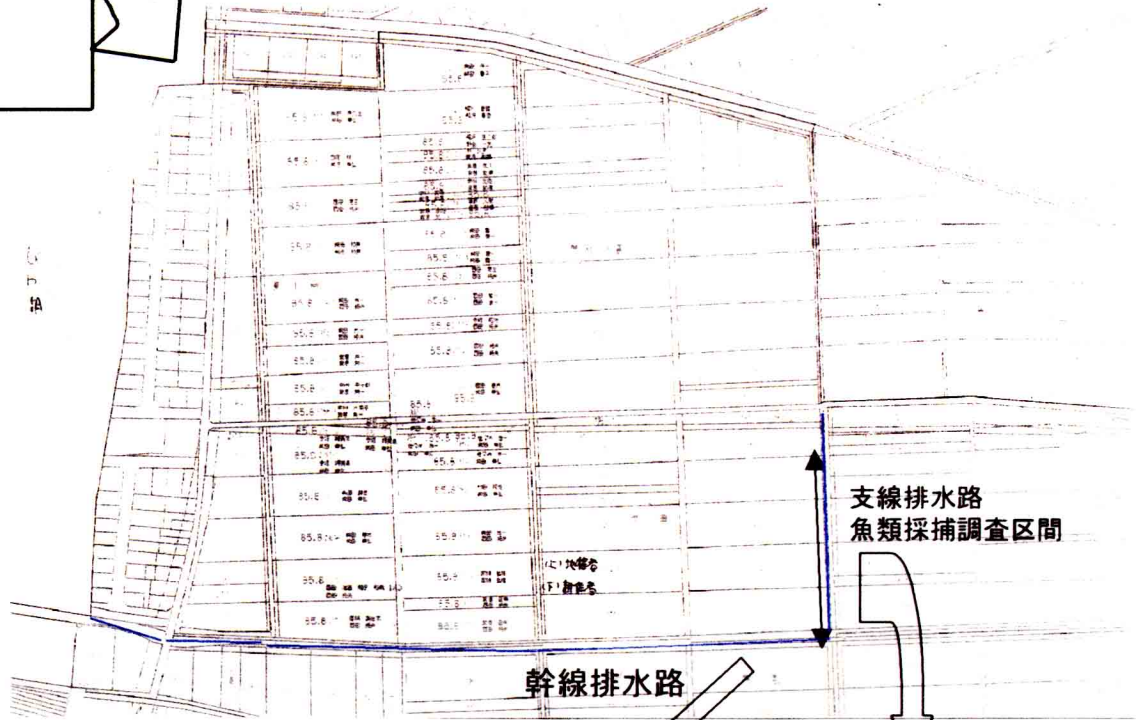
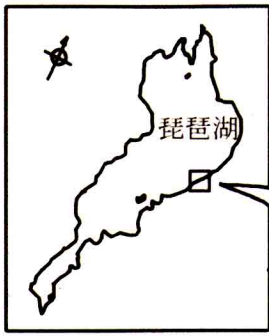


幹線排水路

支線排水路



付図1-2 湖北町海老江水田排水路調査地点



幹線排水路

支線排水路



付図1-3 彦根市新海水田排水路調査地点